

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 横浜市立永田台小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒232-0075
 横浜市南区永田みなみ台6-1

E-mail _____

Website _____

児童生徒数 男子 242名 女子 264名 合計506名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1年生

年間を通して、学校探検を行い学校には色々な人たちが関わっていることに気付いた。育てたあさがおの種を2年生からもらい、育て方を教わった。育てていく中で、種から芽が出て、つるが伸び、花が咲く、そして種へ、命はつながっていることを知った。このことを通して、「のどが渇くと水を飲みたくなる」「お腹がすけば、食べ物がほしくなる」など、植物と自分自身を関連付けて考えることができるようになった。植物の生長には、水や肥料など

の栄養が必要ということに気付き、栽培活動に意欲をもった。

繰り返し観察、水やりをした。

また、ヒヤシンスを育てることで、種から育てるものとの違いにも気付き、植物によって命の形には違いがあることを知りました。



2年生

オーストラリアの絶滅危惧種動物が置かれている状況を知った。動物を守るために活動をしている人たちがいることを知り、自分たちが身近なことで出来ることはないか考えた。

友達と考える中で、ゴミを道に捨てないこと、自分達が学んだことを周りに広めていくことが大切だと感じた。

ゲストティーチャーを招いての授業では、環境の変化について学んだ。地球温暖化や、気候変動について知り、自分達が将来よりよい環境で生活するには、今何をすべきなのかを考えた。電気を細目に消すこと。無駄遣いをしないこと。など、今できることを積み重ねていくことが大切だと考えた。



3年生

「伝えよう永田台のまち」

自然・歴史・伝統行事・施設など自分たちの住む永田台のまちのいいところを様々な角度から見つめていきました。

多くの人とかかわり、まちのよさやちいきの人の温かさを知り、永田台のまちがもっと大好きになりました。

4年生

「地球のいのちを守ろう」

きっかけは、ごみ工場見学で「地球温暖化」のことを知りました。3R夢(スリム)アクションをしているうちにゴミの問題は地球の環境の問題につながっていることに気が付きはじめました。

「このままじゃ、地球の命があぶない！」そこで、温暖化をとめたいチーム、絶滅しそうな生き物を助けたいチーム、エネルギーは無限じゃない大切に使わなきゃチーム、生活が苦しい子、学校に行けない子を助けたいチーム、ごみも食品ロスもへらさなきゃ。できるエコチームに分かれて、調べ、話し合い、自分の考え

を作って発表しました。

5年生

「挑戦の瞬間90」

5月当初より、学校の田んぼを活かして米作り体験を行ってきた。田起こし、代掻きと地域の方の協力を経て、稲を育てた。

10月には稲を刈り、脱穀、精米の作業を行っている。米作りから田んぼに住む生き物や米の種類、地域の方とのつながりについて子どもたちは考え始めた。

米について学習を始めたグループは、世界の米の種類や米から作られるものについて調べた。米の大切さについて学んでいき、日々の食の大切さを感じた。生き物に関するグループは、生き物の生物多様性、食物連鎖について考え、田んぼと自分たちのつながりについて考えることができた。地域の方たちはなぜ自分たちに関わってくれているのか、その方たちの思いを知り、自分たちにできることを考えていった。

また、学年を代表の10名がエコ活動に取り組んでいるアマダホールディングスという企業へ見学に行った。ごみの廃棄量をゼロに近づけるゼロエミッションや工場内に緑を植え、生物の憩いの場とする活動を行っていることを知った。

企業の取組と学校で行っているグリーンカーテンやごみの分別とが似ていることに気付き、環境問題に取り組む大切さを考えることができた。



6年生

「未来への一歩」

よりよい未来を築くために、多くの大人に出会い、友達と語り合うことで自分の一歩について考えました。

夏には、平和について考えました。戦争による被害は人だけでなく、動物や植物の命、居場所をも奪うことを知りました。友達と意見を交わしていくうちに、白黒はっきりつかない課題があることも知りました。友達との語り合いの中で、はっきりしない課題のために、自分たちは考え続けていかななくてはならないこと、できることから行動に移すことを考えました。



冬には、ミラストから派遣されたイベント会社の方との出会いがありました。ゲストティーチャーの方は、限られた予算の中で、お客様の要望に応えるためにブースの企画をしていました。一つのブースにかかる費用や材料の量などを知るとは、これまでエコプロダクツ展などで見てきたブース見方を変えるものでした。



学校の掲示板です。エコプロダクツ展で展示しました。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()